

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

9

月号

2019年9月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

気づきとメッセージの必要性

岐阜本部 バルトン 坂井 俊郎

不思議なもので、登壇して何気なく客席に目をやると身内がどこにいるかすぐ分かる。右前方だ。次に客席中央附近に制服の2人の女子高生が楽しそうにおしゃべりしているのが目に留まった。ここで想像力たくましい小生は思う。友だち同士のお二人さんは合唱部員？部長と副部長？ひょっとしたら組曲『水のいのち』と現在悪戦苦闘中？そうであって欲しいと心底思った。

さて、本番5時間前の朝の最終練習会場。朝はいつもそうであるように皆はどことなくポワーンとしている。

真由子先生の登場で空気は一変する。『「のぼれのぼれ のぼりゆけ」と皆さんは言うけれど、一体誰に向かって唱ってるの？本番までに一人ひとりよく考えておいてね。自分自身の答え（思い、考え）を持って登壇し、お客様にそれを伝えてね。今日のメインテーマはここなんですよ？』全員が大切な宿題を手にした瞬間である。

本番中①雨、②水たまり、③川の後にあった会場の拍手が④海の後に拍手が無い静かな時間があった。あの十数秒は意味ある十数秒であったと思う。あれは⑤海よ をしっかり聴きたいと願うオーデイエンスのメッセージではなかったのか？どう考えてもこの流れは朝いただいた宿題の賜と思わざるを得ない。それもそのはず、伝えたいことを、気持ちを一杯抱えた集団が壇上に居たのだから。管弦楽団の皆さんの思いもそれに近かったのではないか。演奏直後に頷きながらほくそ笑む彼ら彼女らの表情はそう語っていた。そう言えば演奏直後にいただいた多くの拍手、歓声の中に2人の女子高生の絶叫を聴いたような気がするが、考え過ぎか？

お見送りのためにロビーに向かうと、さっとひとりの男性が近づいて来て「数年前から聴きにきているが管弦楽団と合唱団の関係はどうなっているのか？」と真顔で聞かれた。日頃は全く別日程で練習しており、われわれ合唱団は毎週長森と大垣の2カ所に分かれて練習していること、管弦楽団と合唱団の共通の指導者が平光保氏であることをお伝えした

ところ納得されて出口に向かわれた。残念ながら今日の感想を聞きそびれたが年末にも足を運んでいただけの人に違いない。いろいろなことがあった充実した一日であった。

さて、縁あって私たちはこの度高野喜久夫作詞、高田三郎作曲の組曲『水のいのち』に取り組んだが、5曲の詩を味わい尽くして、理解して、咀嚼してやっと内なる部分から湧いてくる思いそのものがメッセージとなって伝わることに改めて気づかされた。

「あなたのスピーチに、伝えたいメッセージがあれば、相手もそれを掴もうと努力し、最終的に必ず伝わりますが、伝えたいことが定かでない話は何も伝わりません。」メッセージの有無に関する英検の試験管の優しくも厳しい言葉を思い出した。ジャンルを超越したこの教訓は今後の糧としないわけには行かない。しっかりしろ、俺！

ところで、この2、3年地域の小学校、中学校から入学式、運動会、参観日、合唱発表会、卒業式等の行事に招かれる機会が増えた。児童・生徒の一途な取り組み、真剣さ裏打ちされた発表に思わず涙することもある。この日を迎えるまでにどれだけこの子供たちは練習してきたのだろう？先生方のご苦労は相当なものだったろう。

自主的にものごとに取り組む姿勢、他人を思いやる温かい気持ち・・・これらの指導の必要性・重要性は言うまでもない。『自ら考え、学び、思うこどもを育てたい。』それぞれの発達段階で表現は異なるものの、小・中・高の児童・生徒の育成方針は例外なくこれらに結晶化されている。これらはどの団体にも求められる活動理念ではなかるうか？関係する者全員の日頃からの気づきの連鎖と個人の弛まぬ努力こそが今後の成長を担保するに違いない。成長のカギはどう見てもわれわれのすぐ傍にあるような気がする。それには何かと痛みが伴うが、同志とともに耐えたい。

感動そして感謝

岐阜本部 アルト 山本 孝子

「水のいのち」の演奏会を終えて、演奏が無事できたことに感謝をしています。

たくさんの方とひとつのものを創り上げることができたことの感動が、私の心に中に込み上げてきました。

「水のいのち」の合唱曲と初めて向き合ったのは、高校1年生でした。あの頃は、気分転換程度に美しいメロディーを口ずさんでいたように思います。地理の先生が合唱部の顧問でした。あの先生は、なぜこの曲を高校生に歌わせたのだらうと思いつつ音とりをしていました。自分が今、この曲をどんな思いを込めて歌うのだらうかと思うと難解な歌詩がたくさんあり、漢字で楽譜の横に書き直して考えながら練習しました。

アルトの全曲を暗譜するというのは、とても大変なことでした。同じ歌詞の繰り返しでも、フレーズの終わりの音の変化で、和音の響きと曲想がどんどん変化していきます。その響きの中で、人の生き方や命を考えさせられました。

高校生の頃と違って、今は、パソコンを検索すれば、曲の解説やらユーチューブ上で様々な演奏を調べることができます。多様な演奏を聴くと自分の歌いたい「水のいのち」がだんだんはっきりしてきました。

あの美しい旋律で始まる「雨」では、雨は恵みであり、どんな人にもどんな物にも平等に降り注いでいる事実、人生は晴天ばかりじゃありえないけれど、雨もまた恵みであり、美しく温かい音楽に自分が包み込まれるようでした。壮大な自然のドラマや命の輪廻が音楽と詩で綴られていて、作品の難易度の高さに届かない悩みが大きくなって、乗り越えられないままに、演奏会の当時を迎えました。

当日の指導の中で私の心に残ったのは、「ステージに立つ以上、ひとりひとりが表現者であり、自分の願いや思いを伝える者になるように。」というご指導でした。（表現者のひとりとして、曲のどこでどんな気持ちを表現し、だれに伝えるのだろうか。）と、はっとさせられました。（ちょっと自信がないから無難に歌っておこうと逃げずに、和音の変化を決定するこの音をしっかり強調しよう。）とか、（この言葉やこの詩の文節を伝えるように語ろう。）と、具体的に頭の中を整理して本番に臨むことができました。

私は、「♪ のぼり、のぼり行け。」というフレーズを歌いながら、大きな力で背中を押され、憧れや祈りを大切に自分の人生を歩んでいるという幸せな気持ちがこみ上げてきました。この向上心や憧れが再び全てのものを包み込み満たしていく雨となっていく自然の摂理を感じながら、感動に包まれていました。

指導して下さった先生方や合唱団の運営のために献身的に活動して下さった方々、そして、当日、ステージに立って演奏して下さったオーケストラや合唱団のみなさんのおかげで、大きな感動を手にすることができました。本当に感謝です。

会場で聴いて下さる知人の方々の応援もあって、感動の一日を迎えることができた幸せをしっかりと自分の心に刻んでおきたいと思っています。

定期演奏会のパンフレットと高田三郎先生の「天国からのメッセージ」は、私の演奏会ファイルに、大切にはさんでおきました。音楽を楽しみ、人生を楽しむことのできる幸せに満たされた演奏会となりました。ありがとうございました。

ベートーヴェン 交響曲第九番

(原詩発音・語訳)

P.10-D(合唱部)

喜びよ
Freude!
frý:ðə
フロイデ

おまえの 魔力は 結びあわせ ふたたび ものを(この)世のならわしが きびしく
Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng
dai:nə tsaubər bîndən ví:dər vas di: mó:də streŋ
ダイネ ツァウバー ビンデン ヴァーデス ヴァス ティー モーデ シュテレング

分けへだてた すべての となる 兄弟
geteilt, alle Menschen werden Brüder,
gə'teilt ələ mɛnʃən vé:rdən brý:dər
ゲタイルト アーレ メンシェン ヴェーデン ブリュエーデル

ところにおまえの やさしい 翼の やすらう
wo dein sanfter Flügel weilt.
vo: dain zanfər fly:gəl ví:lt
ヴォ ダイン ザンフテス フリュゲル ヴァイルト

P.13-E(合唱部)

(そだ)ものは でも ただ 一つの 魂 自分のもと 呼びうる 上に (この)
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem
ja: vər aux nu:r ainə zé:lə zain nent auf dɛm
ヤー ヴェーア アウホ ヌーア アイネ ゼーレ ザイン ネット アウフ デム

地 そして ものはそれが 一度も できなかった(そのものは)
Erdenrund! Und wer,s nie gekont der
é:rdənrunnt unt ver:s ni: gəkont der
エーデンラント ウント ヴェーアス ニー ゲkont デス

ひそかに 立ち去るがよい 泣きながら から この 仲間
stehle weinend sich aus diesem Bund.
sté:le ví:nənt zîç aus di:zəm bunt
シュテレー ヴァイネント ズィッヒ アウス ディーゼム ブント

P.16-G(合唱部)

接吻を 与えた 自然はわれわれに(そして) ぶどうと (一人の) 友を
Küsse gab sie uns und Reben, einen Freund,
kysə gə:p zî: uns unt ré:bən ainən frɔynt
キュッセ ガーブ ズィー ウンス ウント レーベン アイネン フロイント

試練を経た の 死 快楽は られた (その) 虫に
geprüft im Tod, Wollust ward dem Wurm
gəpryt im to:t vólust vart dɛm vurm
ゲプリューフト イム トート ヴォルスト ヴァーアト デム ウルム

与え
gegeben
gə:gebən
ゲゲーベン

そして (あの) 光の天使ケルブは 立つ の前に 神 (の前に) (神)
Und der Cherub steht vor Gott, vor Gott. (くりかえし)
unt dər ké:rup sté:t fɔ:r got fɔ:r got
ウント デス ケールアップ シュテート フォーア ゴット フォーア ゴット

P.21-I(合唱部)

進め 兄弟たちよ きみたちの 道を 勇ましく ように(一人の) 英雄が に向かって 勝利に
Laufet! Brüder eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegen!
láufət brý:dər eyrə ba:n frýydîç ví: ain helt tsum zî:gən
ラウフェット ブリュエーデル オイレ バアーン フロイディッヒ ヴィー アイン ヘルト ツム ズィーゲン

P.26-M(合唱部)

喜びよ 美しい 神々の火花よ 娘よ
Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus
frý:ðə şp:ner gœtər'fʏŋkən tɔxtər aus
フロイデ シューネーア ゲッターフンケン トホテス アウス

至福の島エリーシウムわれわれは 踏み入る 火のように酔いしれて
Elysium! Wir betreten feuertrunken, Himmels-
ely:zyum ví:r bæ-tré:tən fýərtrʏŋkən hí:m-
エリーシウム ヴィーア ベトレーテン フォイアエトルンケン ヒム

崇高なところ おまえの 聖所へ
Iische, dein Heiligtum! 以下は最初の歌詞と同じ
lí:ʃə dain hâilîçtum
リッシュェ ダイン ハイリヒトゥム

P.30 (合唱部)

抱き 一 あえ 数百万の人びとよ この 接吻を(この) 全 世界へ
Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuss der ganzen Welt!
zait úmʃluŋən mílió:nən dí:zən kus dər gantsən velt
ザイト ウムシュルンゲン ミリオネン ディーゼン クス デス ガンツェン ヴェルト

P.31-N(合唱部)

兄弟は のかなたに 大空 にちがいない(一人の) 愛する 父が 住んでいる
Brüder! überm Sternenzelt mu,ß ein lieber Vater wohnen.
brý:dər ý:bərm ʃternənzelt mu:s ain lí:bər fatər vo:nən
ブルューデス イューベアム シュテアスネンツェルト ムス アイ リーベア ファーテアス ヴォーネン

P.33 (合唱部)

きみたちは ひざまずくか 数百万のひとびとよ 氣付くか(おまえは) (あの) 創造主に
Ihr stürzt nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer,
ír ʃtýrtst ní:dər mílió:nən á:nəst du: dən ʃœpfər
イーア シュトルツニドナーデス ミリオネン アーネスト トゥーア デン ショッフファー

世界よ 求めよ 創造主をのかなたに 大空
Welt? Such' ihn überm Sternenzelt!
velt zu:x ín ý:bərm ʃternənzelt
ヴェルト ズーフ イーン イューベアム シュテアスネンツェルト

P.34 (合唱部)

のかなたに 星 に遠くない 彼は 住んでいる
Über Sternen mu,ß er wohnen.
ý:bər ʃternən mus ɛr vo:nən
イューベア シュテアスネン ムス エア ヴォーネン

《ベートーヴェン作詞》

おお、友よ、この音楽ではない。
もつところよ、
もつ喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよう。

《シラー詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、
至福の島エリーシウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、
崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしが
きびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、
すべての人びとに
おまえのやさしい翼の
やすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる
大きな成功を得たものは、
やさしき妻をかち得たものは
地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼ぶ者は、
その歌声をともにせよ。
そしてそれができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。
すべてのものは
自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、
すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。
自然はわれわれに接吻を与え、
ぶどうと、死の試練を経た友を与えた。
快楽は虫に与えられた。
そして光の天使ケルブは神の前に立つ。
うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、
兄弟たちよ、
英雄が勝利に向ってすすむように、
きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万の人びとよ、抱き合え。
この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が
住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまずくか、
数百万のひとびとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のあなたに創造主を求めよ。
星のあなたに彼は住んでいるに遠くない。
(東京労音解説編纂会訳)

9～11月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です(18:30 までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
9月 5日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 6日(金)	大垣市南地区センター
9月12日(木)	長森コミュニティーセンター	9月13日(金)	大垣市南地区センター
9月19日(木)	長森コミュニティーセンター	9月20日(金)	大垣市南地区センター
9月26日(木)	長森コミュニティーセンター	9月27日(金)	大垣市南地区センター
10月 3日(木)	長森コミュニティーセンター	10月 4日(金)	大垣市南地区センター
10月10日(木)	長森コミュニティーセンター	10月11日(金)	大垣市南地区センター
10月17日(木)	長森コミュニティーセンター	10月18日(金)	大垣市南地区センター
10月24日(木)	長森コミュニティーセンター	10月25日(金)	大垣市南地区センター
10月31日(木)	長森コミュニティーセンター	11月 1日(金)	大垣市南地区センター
11月 7日(木)	北部コミュニティーセンター	11月 8日(金)	大垣市南地区センター
11月14日(木)	長森コミュニティーセンター	11月15日(金)	大垣市南地区センター
11月21日(木)	長森コミュニティーセンター	11月22日(金)	大垣市南地区センター
11月28日(木)	長森コミュニティーセンター	11月29日(金)	大垣市南地区センター

＝音楽家の名言＝

- 自分自身のために この曲(レクイエム)を書いたと 言わなかったかい？
- 死の味が 私の舌の上にある。この世のものでない何かを感じる。……………モーツァルト

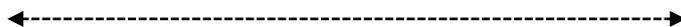
モーツァルト＝オーストリアの作曲家。“神童モーツァル”として、早くから才能を発揮して幅広いジャンルに名作を残した。

運命の“レクイエム”

モーツァルトが、自分の死期を悟りながらも、最後まで情熱を傾けたのが「レクイエム」です。“鎮魂歌”ともいわれるこの曲は、死者を弔う儀式のための典礼音楽です。

よく知られた話ですが、「レクイエム」には、こんな話が伝えられています。モーツァルトは、ある日灰色の服をまとった男からレクイエムの作曲を依頼されます。高い報酬も魅力でしたが、人目をはばかるような態度からモーツァルトは、この使いがあつた世からの使者であると思い込んでしまったのです。(実際には、アマチュア音楽家でもあつたヴァルゼックスという伯爵の使いであり、亡くなった妻のために曲を依頼したのでした。)

それからのモーツァルトは、自分のためのレクイエムとして、この曲の完成に心血を注ぎます。映画『アマデウス』はフィクションですが、モーツァルトの気迫迫る作曲振りがよく出ていて感動させられます。しかし、完成させることは出来ず、「ラクリモーサ(涙の日よ)」が絶筆となりました。そして残りを弟子のジェスマイヤーに指示し完成を委ねました。このような事情からモーツァルトティアン(モーツァルト愛好者)の中には、この曲は「ラクリモーサ」までしか聴かない人もいます。



鏡「友人は、自分を映す鏡だ」と、思いなさい。先般亡くなった母の言葉を思い出しました。

遠い昔、私が18歳で初めて両親と離れ、短大の学生寮に入るとき、母が私の目を真っすぐ見て言った言葉です。広い東京で、決して自分を見失いようと思ふ親心が、伝わったことをよく覚えています。これまで長い年月たくさんの友人に恵まれ、支えられて今の自分があります。幼いころ、学生時代、社会人の時代、結婚生活を送っていた頃、そして年老いた今。世代ごとに、友人も替わりました。人は一人では生きていけません。今、これまでに会った全ての人に感謝しています。高齢になると、体も不備がでてきます。行動範囲もそれなりに狭くなり、心寄せ合う友人の温かさを痛感しています。その中に、50年の間私に寄り添い、長い間変わらぬ穏やかさで支えていてくれる大切な人がいます。年を重ねるたびに、心の深まりをうれしくおもいます。これからも私の人生の終わるまで、お付き合いくださるよう願っています。私の主人です。